



今井小だより

横浜市立今井小学校

令和2年8月18日

学校だより 8・9月号

学校教育目標 : かがやいている子「自分大好き!今井大好き!」

ツバメと過ごした日

学校長 森脇 信行



餌をねだるツバメの雛

マスク着用の夏、一層蒸し暑さを感じます。7月号の写真で紹介した昇降口のツバメの巣が、7月2日の夕方、雨風のため壁から落ちてしまいました。急遽、アホロートルの餌用のアカムシで一晩しのぎ、次の日、カップ麺の容器に落ちた巣と雛を入れ、もとの場所にセットしました。その日は、親鳥が自分の巣と認識し、戻ってくるのか祈るような気持ちで見守っていました。親鳥は近づいてくるが巣には戻らず、雛は世話をしてもらえない状況が続いていました。子どもたちからは、「容器の緑色が目立ちすぎではないか。」「支えている板が大きすぎて見えないのではないか。」などと心配する声が上がっていました。

その日の帰りがけのことです。昇降口に寄ってみると、親鳥が巣に戻り、雛の世話をしていました。ほっとするとともに、今度は「カラスなどの大型の鳥に見つからなければいいな。」「風が強い日が続いているので巣が飛ばされなければいいな。」などと新たな心配が生じました。そうした中、雨風が強かった一週間も無事に過ぎ、親ツバメは休む間もなく餌運びに勤しんでいました。約5分間隔で餌の昆虫を運んでくる親ツバメの様子を見て「ツバメの親はすごいな。」と感心している子どももたくさんいました。こうして、雛は毎日子どもたちに見守られながらすくすくと育っていきました。



えさを与える親ツバメ

7月17日、親鳥の様子が少し変わってきました。それまで、板の上に止まることもなく餌を運び続けていた親ツバメが雛の世話をしなくなりました。まるで、巣から出てきて自分で飛んで食べ物を探しなさい。と雛の背中を押しているかのように見えました。

その日の下校時、「巣立ちは近いよ。月曜日には雛がいないかもしれないよ。」と子どもに声をかけました。「ツバメさん。さようなら。これからも元気でね。ありがとう。」と手を振っていた子どもの姿が印象的でした。



巣立ち前日の雛と親ツバメ

7月20日朝、昇降口には住人のいなくなったカップ麺の容器がひっそりとそこにありました。18日(土)に出勤した職員によると、雛は昼頃、容器から出て板の上に並んでいたそうです。新型ウィルス禍の中、巣作りから巣立ちまで、子どもたちにとっても職員にとっても忘れられない、ほのぼのとした約2か月間の出来事でした。